

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0770101319		
法人名	社会福祉法人創世福祉事業団		
事業所名	グループホーム「輝きの郷」		
所在地	福島市山口字七口13-1		
自己評価作成日	令和4年8月1日	評価結果市町村受理日	令和4年11月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/07/index.php">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/07/index.php</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県福祉サービス振興会		
所在地	〒960-8253 福島県福島市泉字堀ノ内15番地の3		
訪問調査日	令和4年10月6日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当グループホームは、キリストの愛と奉仕の精神で真心こめたための接遇をさせて頂くと共に、専門スタッフによるきめ細やかな介護体制でお世話させていただきます。また基本理念といたしましては、ゆっくり・ゆったり・楽しく・一緒にを掲げ、認知症のお年寄りをありのまま受け入れ、穏やかに健康で明るい生活を送れるように支援致しております。お年寄りの方が一方的に介護を受けられるのではなく、職員とともにご自分のペースで、またできる範囲で日常生活にかかわって頂き、生きがいを持てるよう支援いたします。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1.ユニットの特徴である少人数の良さを活かし、一人一人の利用者の変化や状態を申し送りノートで職員間の共有に努め、理念に掲げる「ゆっくり、ゆったり、楽しく、一緒に」を生活の中で実践に努めている。  
 2.風通しの良い職場環境づくりに努め、職員の定着率向上につながっており、利用者職員との関係性が作りあげられるなど、利用者職員間の関係性が深まりグループホームらしさが運営に活かされている。  
 3.職員が毎日利用者の希望を聞いて献立を決め、手作りの料理を提供している。また、寿司などのテイクアウトを活用したり、ぼた餅などの季節に応じた食事の提供や火曜日はカレーの日とする等食事に変化を持たせ、利用者が楽しみや美味しさを味わえる食事になるよう工夫している。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	当ホームの理念でもある「ゆっくり・ゆったり・楽しく・一緒に」を心がけ、「聖・輝きの郷」全体の行動指針クレドカードに則した理解と実践が出来るように努めている。	事業所理念を支援の基本ととらえ実践に努めている。毎年職員は理念につながる「法人のクレド」の中から項目を選び年度目標を立て年度末には達成できたか否か評価している。また、クレドから毎月月間目標を立て朝のミーティングで話し合いながら実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	通年では地域のボランティアの方々の支援を受け食材の買い出しや、ホーム内の清掃、行事への参加など交流を図っていたが、コロナ禍の中、すべて中止をせざるを得なかった。	コロナ禍前は利用者の買い物をお手伝いするボランティアグループの支援があったが、現在は観葉植物等を持って訪れ、玄関先で利用者とは触れ合っている。今年度地域のお祭りが復活し、山車が訪れる予定となっており、地域との触れ合う機会が少し増えてきている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	新型コロナウイルス感染防止のため運営推進会議等も開催しておらず地域の方々にはできていないが電話での相談にはアドバイスを行っていた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	新型コロナウイルス感染防止のため運営推進会議開催できず会議のメンバーからの意見はもらえていない。	施設長と管理者で運営推進会議を行い議事録を委員に送付している。行事や委員会、研修などの実施状況は記録されているが、利用者の介護度や行事への参加状況、待機者数やヒヤリハット・事故などの運営状況の伝達に乏しく、委員との双方向による意見交換がなされていない。	運営推進会議委員に運営状況を理解いただけるよう資料の内容を整理するとともに返信用の「意見・アドバイス様式」を添えるなど気軽に意見をいただける取り組みが望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村からの文書連絡と、介護保険認定申請手続き時に市役所へ出向く程度となっている。	電話やファックスで行政とやり取りしている。事故報告などは文書で報告しており、課題があれば法人から問い合わせるなど関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内研修への参加と毎月行われている委員会への参加で職員全員に周知し、ケアに取り組んでいる。	法人の身体拘束委員会が定期的に開催され、事業所から管理者等が参加し、内容を職員に伝えている。法人の職員研修があり事業所職員も参加し、職員全員が内容の理解に努め、身体拘束をしないケアを行っている。また、チェックリストを使い職員一人一人が振り返る機会を設けている。玄関は施錠せず見守り対応している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設独自の高齢者虐待防止に関する指針と虐待の芽チェックリストを作り全職員からのアンケートを実施、評価する。また、施設内研修への参加と毎月行われている委員会への参加で職員全員に周知している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在成年後見制度等を利用している方はおられず、今後学ぶ機会を持つようにする。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は家族様に契約書を読み込んで頂き、また読み合わせを行い、理解して頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	第三者委員の氏名連絡先を契約書、重要事項説明書に表記しまた、玄関にご意見箱を設け苦情や要望に迅速に対応できるようにしている。	玄関に意見箱を置き要望を取っているが意見が入ることはなく、家族には何かあれば何でも伝えてほしい旨周知している。利用者や家族から出された身体機能の維持などの希望には回廊となっている廊下を活かし歩行訓練を行う生活リハビリを取り入れ要望に応えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員が意見や提案を言える雰囲気を作り、申し送り時や休憩時間等に話を聞いたり、連絡帳に書いてもらい検討している。	職員は毎日申し送りノートに気づきを記入しており、その中にケアへの意見が書き込まれ、職員間で共有し、改善に努めている。職員体制から職員会議は持っていないが少人数の特徴を活かし、朝のミーティングや連絡帳で利用者の情報の共有に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	ふくしま介護学院が開設され、介護福祉士実務者研修に参加してもらい、介護福祉士資格取得に向けた取り組み、また永年勤続表彰、特別表彰などを行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新型コロナウイルス感染防止のため外部の研修には参加が難しかったため社内研修、ズームによるオンライン研修や動画配信による研修などに参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	新型コロナウイルス感染防止のため他事業所職員との交流する機会はなかったが、管理者会議等で知りえた情報を伝え、取り組みをしている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	可能な限り、入所前にホームの見学をして頂きご本人様のお話を伺うなどしてなじみの関係を持つよう心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申し込みに来られた時より、話を伺いながら信頼して頂けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様とご家族様から意向を伺うほか、入所されてからの様子を見ながらケアプランを作成し、支援に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る範囲で掃除や食事準備、洗濯物たたみを手伝って頂くほか、職員を介して利用者様同士の会話を支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、グループホーム便りと近況報告を発行しご家族様に送付するほか、遠くにいるご家族様にも送付し、その方だけの顔写真を載せている近況報告は好評です。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルス感染防止のため面会は短時間で玄関先で行いはじめ、今後ゆっくり面会ができるよう支援して行きたい。	家族の面会は玄関先で5分程度の短時間で対応しており、頻繁に面会している家族もいる。また、ソファに座ってゆっくり面会できる部屋もあり活用している。遠方の家族で面会が困難な場合は写真付きで近況を報告したり、電話で交流する等関係継続に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	皆様には、月2回の行事を企画して参加頂いているほか毎日のレクリエーション、リハビリ体操などを行い楽しんで頂いている。また職員が仲立ちを行いコミュニケーションをとって頂いている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設に移られる際は、これまでの経緯を担当される方に申し送り、今までの生活がなるべく変化しないよう支援している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	皆様と話をしている時や誘導する際に希望や意向の把握に努めるようにしている。	利用者との会話から昔していたことや趣味を聞きレクリエーションに取り入れている。入居時にセンター方式の暮らしの情報様式を使い家族から趣味や暮らしの意向を詳細に把握している。それを活かして雑巾縫い、折り紙、魚釣りのゲームなど生活に取り入れている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式のアセスメントシートを活用し、お一人お一人に合わせた生活が出来るよう支援に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りや連絡帳の活用、またカルテの参照を行い、お一人お一人の体調などを確認し把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族の方から支援の意向を伺うとともに担当者が他の職員の意見も聞きながらモニタリングシートに記入し、計画作成担当者がそれらを参考にケアプランを作成している。	計画作成担当者は、利用者や家族の意向を把握するとともに担当職員が行うモニタリングの内容を確認し、介護計画を作成している。計画は原則6か月ごとに見直しをしている。計画原案は回覧により職員間で共有している。カンファレンス等計画原案を話し合う場面は持っていない。	参加可能な職員だけでも集まって介護計画について話し合い、職員の意見やアイデアを活かす等職場全体で計画を作り上げていく取り組みも望まれる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にカルテを作成し、ケア記録に日勤帯は黒、夜間帯は赤、特別に変化があったときは青のボールペンでその日の様子を記録し、職員間で共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日によってご利用様様の体調変化や気象の状況の変化もあるので、それを鑑みながら屋外への散歩やレクリエーションの変更などに対応するようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ以前は、地域のボランティアの皆様と協力を得ながら、行事など行っていたが現在はコロナの影響で、屋外の行事はしていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医はすぐに対応できる近くの医院に協力を得ており、市民検診対応も行い、ご利用者様の健康維持に努めている。認知症の専門医に受診されている方については家族の方に対応して頂いている。	内科は、職員対応による協力医への外来受診を勧めており、全員が協力医を受診している。専門医への受診は、家族対応で行い、状態に変化があった時にのみメモで家族を通じて主治医に伝達している。普段は口頭で情報伝達を行い、家族から受診結果の報告を受け職員間で共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	グループホームには看護職員はおらず、何か異変が見られた際は、早めにかかりつけ医に連絡し、診察を受けて頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された際は、病棟の看護師、相談員、ご家族様と情報を共有し退院の日程等を調整している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「重度化対応指針」を作成し地域資源を鑑み、ご本人様ご家族様、地域包括支援センター等と連携を取りながら、支援に努めている。	契約時に、「重度化対応指針」に基づき事業所の対応を説明し、看取りを実施していないことを伝えて了解を得て入居して頂いている。要介護3になった時点で、特別養護老人ホームへの申し込みを勧めている。また、入浴など身体的に日常生活が困難になった時点で、家族と相談し、法人内の老健を活用する等継続した支援に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設内研修の参加と毎月行われている委員会参加で職員全員対応できるようにしているが、今後も引き続き研修会や勉強会に参加し対応して行きたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月「輝きの郷」全体で、消防訓練を行い、年1回は消防署からも職員に来て頂き、通報訓練、消火訓練を行っている。また、グループホーム単独でも毎月避難訓練を行っている。	原則、毎月1日に事業所独自で、様々な想定で避難訓練を実施している。また、月末に実施している法人全体の消防訓練に事業所から毎月1名ずつ交代で参加し全員が参加するようにしている。災害に備え、米や水の他に食材を冷蔵庫に1週間分を保管しており、不足の場合は隣接の特別養護老人ホームから補給を受ける事になっている。	毎月、様々な想定での避難訓練や消防訓練を実施しているが、コロナ禍に加え地域の住民の高齢化もあり地域との協力関係が築けていない。運営推進会議委員や消防防団の訓練への参加など地域との協力関係構築に向けた取り組みが望まれる。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	毎月行われているサービス向上委員会に参加し「輝きの郷」全体で接客サービスの向上に努めており、年1回は、アンケート形式で不適切な対応を行っていないかを調査している。またクレドカードを各自持参し、自己の目標を書き業務にあたっている。	毎月、開催する法人全体のサービス向上委員会に参加し内容を職員に周知し、利用者の尊厳に配慮したケアに努めている。また、行動指針のクレドの中から「今週の全体目標」を掲げ、さらに職員は個人毎今年目標をクレドカードに記入し、年度末に振り返る機会を持つなど自主的に取り組む環境となっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来るだけお話を伺い、思いに添えるよう努力しているが、外出などは希望に添えていない。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課として、ラジオ体操、嚙下体操、リハビリ体操等を取り入れ、またレクリエーション活動は皆さんの希望を聞くなどしているが、その方の体調なども考慮しながら過ごして頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2か月に1度理美容を行って頂き、衣類は家族の方にお願ひし補充して頂いている。また起床時の洗顔や口腔ケア、整容も声がけして行って頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	食事の際には、テーブル拭きやお膳並べ、お茶入れなどを行って頂き、職員も一緒に頂いている。コロナウイルス感染防止のため、現在は黙食を行っている。	職員が毎日利用者の希望を聞いて献立を決め、手作りの料理を提供している。また、毎月の行事のなかで、寿司などのテイクアウトを活用したり、ぼた餅などの季節に応じた食事を提供している。火曜日はカレーの日として好評を得ている。栄養士の資格を持つ職員がカロリー計算を行い、栄養バランスに配慮した食事作りに努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食のカロリー計算を行い食事量や水分量も記録している。水分はお茶、コーヒー、カルピス、ウオーターメイト、紅茶、ココア、ミルクなどを提供し摂取して頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後に毎回口腔ケアを声がけし行っている。また、月に1～2回の割で歯科往診の診察を受けている方もおられる。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定時のトイレ誘導の他、声がけしている。また夜間帯も声がけ誘導し、トイレで排泄できるよう支援している。	食事の前後など定時にトイレ誘導を行っているほか、本人の状態に合わせた誘導を行いトイレで排泄できるよう支援している。夜間はポータブルトイレを利用している方以外は、声掛けと見守りで自力でトイレで排泄できている。昼夜を通してオムツを使用している利用者はおらず排泄自立に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日ヨーグルトを提供してのほか、水分摂取や運動を行って頂いている。便秘のひどい方は、医師の指示に従い下剤で調整している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は事故防止のため職員数を多くし、週に2～3回でその他の日は、陰部清拭と足浴を行い衣類の交換をしている。	最低、週2回の入浴を支援している。浴槽が広いので、気の合った利用者2名と一緒に入浴して貰っている。入浴剤を使用したり季節に応じて菖蒲や柚子を入れ楽しんでいただいている。また、入浴中は、職員と一緒に話したり歌を歌って、ゆっくりゆったり入浴できるように努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間を決めずにご本人のタイミングで居室に誘導している。また日中も休んで頂くため声がけを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	毎月診察をして頂き、医師からの指示に従い服薬介助をしている。診察の際はご本人の様子を報告し、確認している。またご家族		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来る範囲で生活リハビリに参加して頂いたり、行事を企画して参加して頂いている。また毎日レクリエーションを行い楽しんで頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルス感染防止のため現在は外出行事を行っていない。家族も外出を控えておられる。	以前は、買い物・散歩・ドライブなどの外出を行っていた。コロナ禍以降は外来受診時以外、ほとんど外出はしていない。毎日のレクリエーションの他に月2回の行事のなかでボーリング大会やうちわパレーなど体を動かす機会を設けてストレスの解消と体力の維持を図っている。	コロナ禍以降、長期に渡り外出を控えている。気分転換のためにもコロナ感染防止を図りながら敷地内での外気浴や車中ドライブなど実施可能な外出支援の検討が望まれる。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	新型コロナウイルス感染防止のため外出を控えているので、現在お金を所持されている方はおられない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話でのお話はいつでも取次ぎを行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁面には季節の飾りつけをしたり、皆さんが喜んで下さるように動物などの写真を貼るなど楽しんで頂いている。	リビングの壁面には、毎月、職員と利用者で作成した折り紙などの作品を掲示している。また、廊下には、犬や猫などの動物や植物の写真を貼っている。また、リビングには鉢植えの観葉植物を配置し、玄関には毎週職員が生け花を飾っている。室温等は職員が定期的に調整し、利用者が快適に過ごせるように配慮されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂以外にもソファを置いたり、ホームのあちらこちらに腰かけられる空間がある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている	居室にはタンスの他に丸テーブルや椅子があり居室でも安心して休むことができる	居室には、エアコン・ベッド・椅子・テーブル・タンス・押し入れ・洗面台が備え付けられているため寝具以外に家具等を持ち込んでいない利用者はない。収納スペースも十分あるため、それぞれの居室は整然としている。利用者は、家族の写真や折り紙などの自分の作品を好みに応じて壁面等に掲示するなどして、その人らしい部屋づくりをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーで車椅子でも生活することが出来、ご自分の居室がどこなのか、わからない方には表示している。		